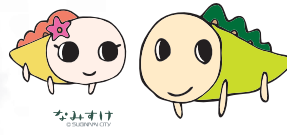




すぎなみ 教育報



No.204

平成24年3月12日

すぎなみの教育情報発信中!

教育委員会ホームページ

<http://www.kyouiku.city.suginami.tokyo.jp/>

発行

杉並区教育委員会

杉並区阿佐谷南1-15-1

☎ 3312-2111 FAX 5307-0692

大人の“輝き”が、子どもを育てる

～誰もが持ち味を活かして子どもとかがわり、支えあう時代に!～



現在の学校の取組は、基礎的な学力の習得や体力の向上を目指すことではありません。たくましく自らの生きる道を切り拓く力や他者を尊重しながら豊かな関係を築く力などを育てていくために、キャリア教育やコミュニケーション能力の育成なども行っています。

こうした取組には、教職員の努力だけでなく、多様な経験や知識をお持ちの保護者や地域の方々と教育の目標を共有し協働していく必要があります。

教育委員会では、子どもを中心とした地域づくりを進めています。



●学校支援本部は、学校を組織的に支援するボランティア団体です



教育委員会は、地域の特色を活かした創意工夫ある学校支援本部の取組を推進しています。

西田小の学校支援本部では、NPO法人「すぎなみムーサ」が企画運

営した「杉並の職人展」に注目したことをきっかけに、総合的な学習の時間に区内の扇職人をお呼びしました。扇職人の魅力と「すぎなみムーサ」の経験が活かされた授業は、5年生にとって魅力的なものとなりました。

●学校支援本部にかかわりながら、大人も学んでいます

2月に、区内のNPO法人「スクール・アドバイス・ネットワーク」の企画運営で学校支援本部関係者の研修が行われました。講師は、東日本大震災の発災当時、仙台市の教育委員会で勤務されていた方にお呼びしました。震災直後の様子をお聞きするなかで、大人は逆に子どもたちに励まされていたこと、子どもたちが私たちの未来を創っていくのだということに改めて考えることができました。後半には、講師と教育長との対談を通して、子どもたちの学ぶ意欲を高めるためには、魅力的な大人と出会うことや、本物の経験を積む機会をつくるのが重要だということ学びました。



子どもと大人が学びあう地域づくりは、皆さ一人ひとりのちょっとした行動から具体化していきます。身近な小・中学校の学校支援本部や、それを支える地域づくりに、ぜひお力をお貸しください。



●共に汗を流すことで、大人同士の関係も深まります

天沼中学校区では、0歳から15歳までの子どもの育成・教育活動に焦点をあてた取組を行う地域教育推進協議会がモデル設置されています。モデル地区では、中学校区という地域の単位を設定し、区域内の学校や学校支援本部、PTAのほか、児童館や青少年育成委員会、町会、商店街なども加わり、ゆるやかに目標を共有しつつ活動しています。中学生のチャリティ活動を地域全体の活動に広げたり、これまでPTA中心で行ってきた社会貢献活動に地域の企業が協力するなどの自発的な連携も生まれてきています。

地域教育推進協議会が発行した「スマイルカレンダー」「スマイルニュース」



●これからの教育を進めていくには、多様な大人が熟議する場が必要です

今年度は、今後10年間の教育指針となる「教育ビジョン2012」を策定しています。1月には、教育委員会主催で「すぎなみ教育シンポジウム」を開きました。

学校関係者や保護者、生涯学習や地域活動に関わっている方々など300名近くが、「座・高円寺」に集まり、地域と共にある学校づくりを手掛かりとしながら考え、語る場となりました。当日のアンケートでは「地域が主体ということを強く認識した」、という感想も寄せられました。



問合せ先：教育改革推進課

平成24年度 教育予算の主要事業を紹介します

一人ひとりに応じたきめ細かな教育を行うために

◇全ての小・中学校に学校司書を配置 (9,608万円)

区立小・中学校の図書館を、児童・生徒の読書習慣を培う「読書センター」及び学習活動を支える「学習情報センター」としての機能を充実させるために、蔵書点検や読書相談、調べ学習、教員への授業支援等を行う学校司書を全小・中学校66校に配置します。

※上記予算以外に、緊急雇用創出臨時特例交付金事業も活用します。



◇適応指導教室の開設 (736万円)

不登校児童の居場所として、小学生を対象とした適応指導教室を新たに設置します。従来の中学生を対象とした2箇所の適応指導教室と合わせて運営していきます。

- ・設置場所区立中央図書館内(荻窪3-40-23)
- ・定員20名(予定)

生涯の基盤を育む質の高い教育の推進のために

◇小・中学校教育への支援の拡充 (1億81万円)

- ・小中一貫教育の学習プログラムや教材を作成します。
- ・中学校夏季パワーアップ教室への支援を行います。
- ・中学校に武道指導員を派遣し、安全確保と事故防止に努めます。
- ・震災時対応マニュアルの作成など、防災教育を充実します。
- ・区制施行80周年を記念して、中学生小笠原自然体験交流を実施します。



学校教育環境の整備・充実のために

◇区立小中学校の改築等

高井戸第二小学校の改築 (10億897万円)

平成23年度の仮設校舎竣工に引き続き、改築期間中の代替校庭整備や既存校舎解体の後、新校舎の建設に着手し、学校施設の耐震化事業の完了を目指します。

統合校の施設整備 (7億7,166万円)

平成25年4月の永福南小学校と永福小学校の統合に向けて、平成23年度に着工した屋内運動場棟建設の竣工を目指すとともに、永福小学校既存校舎の改修を行います。

井草中学校の改築 (5億3,375万円)

平成23年度の屋内運動場及び普通教室・特別教室棟の竣工に引き続き、特別支援学級棟の建設を完了させます。その後の仮設校舎解体と校庭整備を行います。



井草中学校完成予想図

学びとスポーツで世代をつなぐ豊かな地域づくりのために

◇調べ学習支援の強化 (171万円)

図書を使った授業を支援するため、図書館の調べ学習資料の充実を図ります。また、ボランティアとの協働による調べ学習室の運営や、調べる学習賞コンクールの実施等を通じて、子どもの読書活動の推進につなげます。

◇体育施設の整備 大宮前体育館の移転改築 (7億133万円) 妙正寺体育館の改築 (1,960万円)

スポーツの多様化に対応するとともに、地域スポーツ活動を振興するため、大宮前体育館を旧荻窪小学校の跡地に移転改築します。

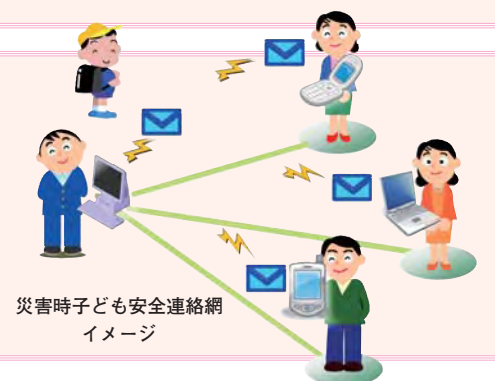
また、老朽化した妙正寺体育館について、改築に向けた調査及び設計に着手します。



災害に強い防災まちづくりのために

◇災害時子ども安全連絡網の整備 (1,529万円)

東日本大震災の教訓を踏まえ、学校、保育園、子供園、幼稚園、学童クラブと、保護者等が発災・危機管理情報を共有できるよう、「災害時子ども安全連絡網」を整備し、事前に登録した保護者等のメールアドレスに、一斉送信をします。



ペン知る ▶ 平成24年度 就学援助のお知らせ 就学援助は、区内在住で国公立の小・中学校に通学している児童・生徒の保護者に対し、学用品や給食など学校で必要な費用の一部を杉並区が援助する制度です。

【対象】 杉並区に住民登録がある児童・生徒と同居の保護者で、次のいずれかに該当する方

- (1) 現在、福祉事務所の生活保護を受けている。
- (2) 平成23年4月1日以降に、生活保護が停止・廃止になった。
- (3) 平成23年中の世帯員全員の総所得金額の合計が、教育委員会で定める認定基準額以下の世帯。

【申込】 申請書は、4月以降に区立小・中学校または学務課就学奨励担当で配布します。区外の学校に通学している児童・生徒の保護者で、就学援助の受給を希望される方は、同担当までお問合せください。 **【問合せ】** 学務課就学奨励担当

命を考える ～東日本大震災発生から1年～

未曾有の被害をもたらした、命の尊さや人々の絆を強く感じる契機となった東日本大震災が発生してから1年が経ちました。現在、「命」をテーマにした授業が各学校で行われていますが、その一部をご紹介します。



こども未来基金のテーマソング「Colors」をみんなで歌いました

■「体と心の命を考える授業」～西田小学校5・6年生と松溪中学校全校生徒～

福島県いわき市で被災したソウルシンガーの菅波ひろみさんを迎え、素敵な歌声によるゴスペルや被災体験を聞くことができました。「地震・津波・原発問題により、街が閑散としていく中で、当初は感じるものの出来なかった音楽や歌の必要性。しかし、現在は音楽やゴスペルの力を信じて、活動しています」と語ってくれました。代表生徒からは現実にはしっかりと向き合い、活動を続けている強い姿に感動したという感想が述べられました。



「蜘蛛の糸」や「嘉代子ざくら」など9編が上演されました

■「紙芝居を用いた読み聞かせによる人権講演会」～荻窪中学校～

紙芝居サークル「原っぱ」から22名の講師を迎え、全学年7クラスで「命と心」をテーマとする、人権講演会が行われました。中学校の授業でなぜ紙芝居？と疑問をもっていた生徒もいましたが、演じ手の方々の迫力ある熱演に、引き込まれるように聞き入っていました。紙芝居を通じて、命の大切さや、いつ何が起きるか分からない現状で、後悔しないように今を大事に生きることを考えさせられる講演会となりました。

済美日曜教室の「クラブ学習」を紹介します

社会教育センターでは、義務教育を終えた知的障害者の方を対象に「済美日曜教室」を年16回開催しています。9月～2月に済美養護学校を中心に開催するクラブ学習には、「調理」「音楽」「サイエンス」「運動」「アート」の5つがあります。参加者の興味ごとに少人数に分かれて行うクラブ学習は、一人ひとりの生き生きとした表情を見ることができます。

その他にも、音楽・体育などの通常講座と、遠足・社会見学・宿泊等の校外活動を行っており、参加者の仲間づくりや人間形成の向上を目指して実施しています。

運動クラブ

場：済美小学校
フットサルのルールを学び、ゲームをしました。



アートクラブ

場：大宮中学校
メッセージカードや七宝焼きを作りました。素敵なブローチができました。



音楽クラブ

場：済美養護学校
秋を感じる歌と鈴やタンバリンで合奏しました。



調理クラブ

場：済美養護学校
この日の昼食（ジャージャー麺）を作りました。おやつを作ることもあります。



サイエンスクラブ

場：済美養護学校
糸車やバルンカー（厚紙で作った車を風船の空気が抜ける勢いで走らせる）を作りました。



～ボランティアを募集しています～

済美日曜教室は多くのボランティアの協力により運営されています。校外活動とクラブ学習で参加者のサポートをしていただける方を募集しています。詳細はお問い合わせください。

問合せ：社会教育センター済美日曜教室担当 ☎ 3317-6621

若者の社会教育活動が育む多様なつながり

“活動”を通してつながる ～ユネスコ中学生クラブ・青年部

英会話や各国のゲストを交えて国際理解を深めるプログラムや夏のキャンプを通じて築く、他校の生徒や青年部の高校生・大学生とのつながりの強さは、杉並ユネスコ協会の自慢の一つです。これは、国際色豊かで、多様性を認めあえる居心地の良さが生みだすものかもしれません。



話しあえる仲間をつくり、「いつでも帰れる場所」があることは、大きな心の拠り所になります。ユネスコの一員になって、一緒に「絆」を育んでみませんか？関心のある方は社会教育センターへお問い合わせください。

若者がリアルに仲間と出会える場 ～若者CAMOプロジェクト

地域と疎遠になりがちな若者のゆるやかな仲間づくりを目指して、杉並をひとつのキャンパスに見立てた“部活動”がはじまりました。まちでつながる阿佐ヶ谷部や高円寺部。地方出身、一人暮らしの若者が郷土料理などでつながる水曜夜ごはん部。皆で楽しく清掃しながら、道行く人とふれあうクリーンアップ部。銭湯コミュニティをつくっていく銭湯部。これらはどれも、若者自身が考え出した部活動です。



会議風景。どんな部活動なら若者の関心を引き寄せられるかな？！

CAMOプロジェクトは、ゆっくりとでも意欲ある若者の持続可能な地域参加を目指していきます。

【申込・問合せ】 社会教育センター
〒166-0011 梅里1-22-32
☎ 3317-6621 / FAX 3317-6620 E-mail:shakyo-c@city.suginami.lg.jp

ペン知る



矢嶋又次画「朝荷の車を押して帰る女」1978年

分館企画展示「荻窪今むかし～荻窪の古老 矢嶋又次の遺した「記憶画」～

矢嶋又次氏が描いた大正から昭和初期にかけての「記憶画」より、急速に発展してきた荻窪駅周辺の変遷を紹介いたします。また、昨年度開催しました「荻窪今むかし～記録と記憶でたどる荻窪の変遷～」展に寄せられた資料なども一部公開します。

開催期間：4月8日（日）まで 開館時間：午前9時～午後5時
休館日：毎週月曜日・毎月第3木曜日（祝日・休日の場合は、翌日が休館日）
観覧料：無料 問合せ：郷土博物館分館（天沼3-23-1 天沼弁天池公園内）☎ 5347-9801

杉並区中学生レスキュー隊が表彰されました！

第8回地域の防火防災功労賞 優秀賞

杉並区中学生レスキュー隊の活動

平成17年度に発足した杉並区中学生レスキュー隊は、平成22年度には区立中学校全校で設置されるまでになりました。消防署の協力による年2回の合同訓練に加え、日頃から各学校における震災救援所の訓練やまちの防災行事に参加するなど、社会奉仕活動も含め活動の幅を広げています。



問合せ：教育改革推進課

杉並区立学校教職員研修所「秋川荘」終了予定のお知らせ

教職員研修所「秋川荘」は、昭和40年4月1日に杉並区立学校に勤務する教職員の研修施設として開設し、今日まで運営してまいりました。

また開設以来、研修のないときには施設を有効に活用しようと、一般の区民の皆様方にもご利用いただいております。

しかし、近年は教職員研修についての見直しが行われ、宿泊による研修が減ったことにより、施設本来の目的である教職員研修としての利用が減少しているほか、多額の維持管理経費を費やしていることで、教育委員会としても施設そのもののあり方について検討を行ってまいりました。

その結果、教職員の研修での利用は今年度末をもって終了とし、一般の区民の皆様のご利用につきましては、平成24年9月末までといたします。お申込みは、これまでと同様（株）KNTツーリスト杉並区役所内営業所にて受け付けます。

これまで長きにわたり、多くの区民の皆様方にご利用いただきましたことを改めてお礼申し上げます。

問合せ：学務課学事係

平成23年度の区指定文化財が決まりました。

「天和二年銘手水鉢」(1基、有形文化財・彫刻)は、五代將軍綱吉の治世、天和二年(1682)の銘があり、手水鉢としては区内最古のものです。正面には開花した大ぶりの蓮華を、左右面には半ば開いた蓮華を厚く浮彫りした図柄で、全体としてどっしりとした重厚感を与えます。これは江戸時代前期の石造品の特色を示しており、貴重なものです。(光明院境内、上荻2-1-3)



天和二年銘手水鉢

高井戸東遺跡出土の旧石器

星野家文書



「星野家文書」(664点、有形文化財・古文書)は、上井草村の旧家である星野家に伝存した文書類です。明治維新期の当主紋左衛門は、上下井草村の連合戸長、そして井荻村の村長を務めました。星野家文書の中心は、紋左衛門が連合戸長として10年間にわたって作成・授受した文書類で、戸長役場史料として貴重です。江戸から明治への政権交代に伴う版木や印章など、行政文書の様式変更への対応もわかります。(郷土博物館蔵)



出土旧石器

「高井戸東遺跡出土の旧石器(追加)」(262点、有形文化財・考古資料)は、平成4年度に1,778点の旧石器を指定した同遺跡の追加出土資料で、今回の追加分を合わせ計2,040点となりました。高井戸東遺跡は日本最古級の旧石器時代遺跡として学会で注目を集める遺跡です。また、今回の追加資料には、高井戸東遺跡最古の石器群が出土した地層で発見された大形炭化材も含まれています。炭化材は科学分析により32,000年以上前のものであることがわかり、地道な発掘と現代的な科学分析により、高井戸東遺跡の価値が高められる資料といえます。なお、今回の指定にあわせ、名称を変更しました。(郷土博物館蔵)



出土大形炭化材

問合せ：社会教育スポーツ課文化財係

第3回中学生東京駅伝大会

平成24年3月20日(火)

東京駅伝大会は、区・市・町内の中学校から、それぞれ選抜された中学2年生チームによる区市町対抗駅伝です。

みんなで力を合わせて、男子42.195km、女子30kmを走り抜けます！

スタート：女子：午前10時 男子：午後1時

会場：味の素スタジアム・都立武蔵野の森公園特設周回コース

※走行コース等、詳細については東京都教育委員会のホームページ「イベントカレンダー」等をご覧ください。



2012.2.12 現地試走会にて



教育委員会の動き(23年12月～24年2月)

教育委員会は、毎月第2・4水曜日に開催され、必要に応じて臨時会を開催しています。

【教育委員会開催状況】 定例会 5回 ・ 臨時会 2回 ・ 議案 15件 ・ 報告事項 25件

【主な案件】 ◎は審議、○は報告事項

- ◎ 平成23年度教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価(平成22年度分)の実施結果について
- ◎ 平成24年度杉並区立小中学校の学級編制方針について
- 「台湾との中学生野球交流事業」の実施について
- 災害時子ども安全連絡網の整備と今後の進め方について
- ◎ 平成23年度杉並区指定・登録文化財の指定について
- 五大学連携協働事業への東京女子大学の参加について
- 杉並区立学校(園)における震災時対応及び防災対策の指針について